



# 法の光 (法光山 妙勝寺 通信)

No.271

2022年(令和4年) 7月 1日発行

文責 大岩 清人

— 除夜の鐘 —

妙勝寺ホームページ

<http://www.myosyoji.net/> 又は「法光山 妙勝寺」で検索

## 妙勝寺開山会 — 次期住職と総代・世話人顔合わせ —

1528年6月8日に妙勝寺は建立されました。1555年6月7日に開山された常在院日住上人が遷化されました。今年は少し繰り上げて6月5日(日)14時から本堂で総代・世話人にお集まり頂き開山会を執り行い、ご開山上人への報恩感謝のお経をあげました。

法要に続き、次期住職候補・松田龍頭上人と総代・世話人さんと顔合わせを致しました。総代・世話人さんには松田上人を宍粟市の檀家さんのお家に案内して頂きます。(この報告の頃にはだいぶ挨拶が進んでいます)

これから色々な形で檀家の皆様とのご縁を深めて頂きます。



## 住職交替とは

小生が住職を退任すること。新たに次期住職が着任すること。

小生は体調などの理由から正干与人の円光寺さんに住職を辞する旨を伝え了解を得ました。(小生は今年度末まで法務を勤めるということです。)

了解された円光寺さんが次期住職候補を選出し、妙勝寺総代に伝達(推挙)されました。正干与人と妙勝寺護持会の間で行われました。

そして皆さんの代表として総代さんが松田上人の元を訪ね「護持会あげて次期住職にお迎えします。是非妙勝寺に来て下さい。」とお願いに行かれ、松田上人より「お引き受けします。よろしく願います。」と妙勝寺護持会と松田上人の間で了解が得られました。

来年度の次期住職着任に向けて、護持会がどの様にお迎えしどの様な関係を作って頂くかです。現に総代・世話人さんが皆さんの家へ松田上人を連れて顔合わせと挨拶に廻っておられます。

93年前、大岩文雄(29世)が妙勝寺に入寺した時と同じです。護持会が度々会合をもたれていた文書が整理の中で出てきました。

小生は辞する立場ですので、残された期間身体を管理し、これまで同様一生懸命に勤めると共に、お寺を明け渡す準備と、そして松田上人に寺務の引き継ぎを行うのみなのです。

## 「お上人さん毎日泣けて泣けて・・・」

お葬式の会場で2ヶ月前にご主人を亡くされた奥さんが「毎日泣いています。人との別れは辛いです。」「そうですね。別れは思い出と重なって辛いですね。」「今日のお葬式の義理の姉も優しかったので、辛くて涙が止まりません。」「辛いことが重なりましたね。」「優しい主人でしたから・・・一人は淋しいです。」「日常の些細な話が出来ないのに気付きますね」「はい。そばにいてくれることが安心だったと気付きました。」「何気ない話ができることやそばにいてくれることが幸せなんですね。居なくなって気付くことなんです。ご主人に出来なくてもまだ家族や友達がおられるのですから、その人に出来る事をしてあげて下さい。」「そうですね。」「旅立たれたご主人は喜んでおられますね。そしてご主人は幸せ者ですよ。泣いてくれる奥さんがいらっしゃるのですから。いっぱい泣いてあげて下さい・・・。」

これまでに何度も書きました。側にいるのが当たり前なのですが、その時はいてくれることの幸せと考えないのも当たり前なのでしょう。

買い物に出かけました。通りを歩いて信号待ちをしていると、一人の高齢女性が突然「白い髪の方は、帽子をかぶらないといけないよ。」と私に語りかけてきました。突然の事で何を言われているのかわからないでいると、もう一度同じことを言われるのです。「はあ～そうですか？帽子をかぶらないといけませんか。」と相づちを打つと信号が青に変わりました。女房が「お父さん。あの人が認知症とわかって返事したん？」というのです。「しらん。」「あの信号の横のお店の張り紙が目についたんやけど、そこに顔写真と『この人認知症です』と書かれていたわ。たぶんこのお店の人なんやろな～。だれかれと声かけてんやろな～。」 帰り道同じ所を見ると張り紙があった。



夏椿＝沙羅双樹は1日花

歌詠み人よりのお手紙  
 「病ゆえ職を辞する便りあり 健  
 やかなりしとおもひをりしに」  
 「山裾の詣でる墓に香流る 心に沁  
 みる入相の鐘」(入相の鐘いりあい々方の鐘)  
 「鬼子母神お護り下され三歳の  
 曾孫はのり乗り 高速お経に」  
 「あのこともこの事ごとも思い出に  
 昔ガラスの向こうのもみぢ」  
 ありがとうございます。染み入りました。

### お盆の棚経日程

7月8・9・10日	東京
7月24日	大阪一部
8月1日	阪神
8月2日	阪神
8月3日	神戸・明石
8月5日	たつの・姫路
8月6日	姫路北部・東部
8月7日	宍粟北部
8月8日	蔦沢
8月10日	岸田
8月12日	春安・段
8月13・14・15日	山崎町内
8月17日	<b>お盆施餓鬼法要</b>

### お盆施餓鬼塔婆

同封のハガキにて申し込み下さい。  
 棚経の合間に書きますので早めに申し込み頂ければ幸いです。

猛暑の中の棚経も皆さんのお家を訪ねるのも今年で終わり、ぶるぶる汗の法要も最後となるんだな～

## 因縁

生きるが故に多くの因縁があります。原因とご縁ですが、色々な結果をもたらします。最近の事例で考えてみましょう。

### 山口県4630万円問題

阿武町が一人の青年に463人分の給付金を誤って送金した事件です。この青年は経済的に困っていたようです。税金も滞納していたといえます。そんな彼の元に突然の大金が舞い込んだのでした。

普通に生活できている状態であれば、「4630万円で人生を棒に振れない」と返金したでしょう。それがです。返金を考える一方で自分の中にいる鬼がささやいたのです。「町のミスやないか・・職員の対応も横柄だし・・困らせてやろうか・・」元来、ギャンブル好きだったことがこれに荷担したのでしょう。

そして、逮捕されてしまったのです。

町に取って些細なミスだったのかもしれませんが、この青年に大きな罪を背負わせることになりました。

### アメリカ・小学校銃撃事件

18才の男子高校生が銃を乱射し、子どもと大人合わせて21人が死亡した事件です。サルバドール・ラモス容疑者は18歳になってすぐライフルを購入し、まず祖母を襲った上で、防弾服に着替えて小学校に乗り込みました。

何故、小学生に向かって乱射したのか・・？

その背景には彼の成長過程でいじめを受けていたことが原因だったようです。彼には吃音きつおんがあったようです。そのことでいじめを受けていたというのです。復讐は恨みを持つ特定の者へ向かうこともあれば、自分がいじめを受けていた世界に戻ることがあります。今回は後者です。

小学生は何ら犯人との関係はありませんが、自分が小学校時代に受けた思いが重なるのです。小学校時代のいじめられた怨念が原因となりこの様な結果をもたらしました。この怨念が鬼です。

誰しも心に鬼が住んでいます。その鬼がどの様な縁でムクムクと出て来るかわかりません。お釈迦様は如来寿量品第16の中で「悪業の因縁」と鬼を表現されています。一生懸命に正しく善良に生きようと努力しても“人生の七味”が芽をもたげてきます。“うらみ、つらみ、ねたみ、そねみ、いやみ、ひがみ、やっかみ”です。どうしても出て来るのです。“自分の中に鬼が住んでいる”と謙虚に自覚する人は自分のことを悪人と思えます。親鸞聖人の“善人なおもて往生をとぐ。況んや悪人おや”と説かれた意味がわかります。